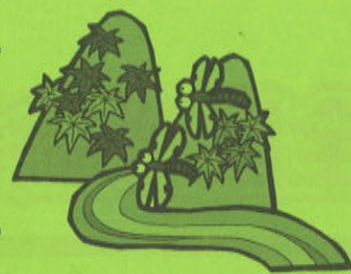


全国手をつなぐ育成会連合会事業所協議会

# KSKQ 事業所協議会ニュース

2017

No.  
095



10

作成 全国手をつなぐ育成会連合会事業所協議会 運営委員会

## 全国手をつなぐ育成会連合会・全国育成会事業所協議会 西日本地区研修セミナー報告



一九九二年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

去る、7月1日(土)に(社福)大阪手をつなぐ育成会の絶大なるご支援を得て、大阪市立社会福祉センターで、全国事業所協議会 西日本地区研修セミナーが開催されました。これは、昨年度の岡山県における全国研修と今年度の東京(幕張)における全国研修の谷間を埋め、時機に合った内容の研修を深めようという狙いで開催され60名を超える参加を得ました。

厚生労働省より政策企画官の野崎伸一さんにご登壇いただき、共生型社会実現を目指した「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念を学ぶ中で、実現に向けて障害者事業所が何を成すべきなのか、行っているのか、出来るのかを自らの問題として考えました。

第2部では近畿圏内から奈良県の廣瀬朋さん、神戸市の佐々木勝也さん、大阪箕面市の永田千砂さん3人が障害者事業所としてご登壇。そして滋賀県から高齢福祉(デイサービス)の村田美穂子さん、児童福祉の立場でこども園の三上智代さんが障害以外の立場でご提案をいただき白杉運営委員がコーディネイト。助言者として厚労省障害福祉課長補佐の市川聡さんもご参加いただいた幅広いかつ、自身の濃い議論が生まれました。

これを機会に障害の分野だけを守旧するのではなく、地域全体の共生実現に向け「何を成すべきか」を考えてまいりましょう。

# 第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 北海道札幌大会報告

第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 北海道札幌大会 平成二十九年九月二十三日(土)と二十四日(日)二日間に行われ、北海道札幌市において開催されました。この全国研修大会は、北海道の地元参加は元より、南は、沖縄まで全国各地から約1700名(地元北海道約900名)にも及ぶ参加を得て盛大に開催されました。北海道札幌大会は、「発達・教育」、「働く」、「通う」、「暮らす」、「高齢」、「権利擁護」と五つの分科会から構成され行われましたが、今大会は、事業所協議会北海道ブロック運営委員である森本委員(全国大会実行委員)の発案もあり、初の試みとして、連合会全国研修大会の五つの分科会の中で、第三分科会「通う」(事業所を考える)を全国育成会事業所協議会が受け持つ形で行うこととなりました。これまで、連合会と事業所協議会が、車の両輪の如く連携してきた中で、「事業所を考える」をテーマとして、育成会全国研修会の中で、親の会と事業所協議会と一緒に議論する事ができたこと、大変有意義なものになったと考えております。今後、育成会運動の中において、本人・親の想い

「来」について説明頂く。二人目に静岡県手をつなぐ育成会会長 小出隆司氏より親の会育成会としての立場で、「作業所の設置運営主体から運動体へ」をテーマに説明頂く。三人目に、弟が障害を抱える中で、親の会活動に参加し、事業所を立ち上げた。社会福祉法人はなゆめ常務理事 松崎伸一氏より、事業所経営者の立場から、「事業所の未来」をテーマに説明頂く。

【通う 事業所を考える 話題提供まとめ】

【田中氏】 〓事業所運営で意識している点〓

- ・利用者特性に応じた個々による支援計画の充実
- ・利用者の自己実現、自己選択、自立に向けた支援
- ・職員に働く意欲と楽しさを与える職場
- ・安定した経営状態を保つため、利用者への安全、安心、充実した支援である。

【小出氏】 〓理想の共同体の条件は〓

- ・組織の目的と構成員の目的とが一致していること。
- ・構成員が「したい」と思うことを安

に寄り添える事業所を議論しながら、一緒に考えて行きたい。

第3分科会 「通う」 討議テーマ

- ・本人、家族に寄り添う支援と
- ・職員がやり甲斐をもって働くために
- ・安定した事業所運営に必要なこと
- ・就労継続支援B型、生活介護、地域活動支援センターのこれから
- ・地域の社会資源としての事業所
- ・育成会運動の歴史と事業所

〓午前の部

分科会「基調講演」

NPO法人静岡県作業所連合会・顧問 金刺幸春氏と滋賀県地域活動就労支援事業所協議会 会長 白杉滋朗氏の対談式による基調講演を頂いた。育成会運動の歴史と無認可の事業所時代から支援費制度、自立支援法等の制度にのった事業所への転



全に安易に達成

- ・共同体は気の合った仲間、共同行為をして楽しいメンバーで構成する。

【松崎氏】 〓夢を語れ 事業所の未来(ものがたり)〓

- ・小規模作業所は地域生活支援活動の拠点となる。
- ・事業所は原点を忘れず、地域のニーズ、利用者のニーズ、特に障がい当事者と手を組んで応える。
- ・職員不足により親兄弟は、もっと事業所運営に関わる。

会場からは、三人から質問・意見



換について様々対談頂いた。

〓午後の部

分会会「シンポジウム」

北海道根室町の社会福祉法人柏の里めむろ 総括施設長 古川 誠氏がコーディネーターを勤め、3名の方が、それぞれの立場で話題提供された。

最初に事業所の経営もされていて、親の会理事長である沖繩県手をつなぐ育成会理事長 田中 寛氏より親の立場で、「事業所の過去・現在・未



が出された。その中で、北海道手をつなぐ育成会会長の佐藤 春光氏より、障がい者本人、その家族、そして、事業所と立場の違いで、話題の提供をいただいたが、立場が違うのでは、なく役割が違うだけで、みんなで支援していくという事が大事ではないか、意見が出された。

